

	<p>2002年11月15日 第33号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 ホームページ：ただいま工事中</p> <p>E-mail : mizumidori@nifty.com</p> <p>〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
---	---

赤塚公園の自然を みんなで観察し、話し合いました

11月2日(土)は、会の大きな行事である赤塚自然観察会と意見交換会を実施しました。参加されたのは会員の他、公園を管理している東京都公園協会管理課や赤塚公園管理所の方、三園小学校の相楽校長先生、先生方、ニリンソウを守る会、三園町会のみなさんなど28人。

前日の雨が上がり、すばらしい秋晴れ、新高島平駅を10時に出発、のんびり赤塚公園の大門から城址をまわりました。植物を教えてもらったり、落ち葉観察シートで葉の種類を調べたり、ムクノキの実やドングリを拾ったり、昔の自然の様子やニリンソウを守る活動の説明を聞いたり・・・

途中で、釣巻さんから湧き水にいるサワガニとオニヤンマの生態の話、また島井さんから森の見方の説明をしてもらいました。赤塚公園の斜面林は手を入れず自然のままにされているので、自然の力で自然に戻りつつある状態だそうです。そして500年ほどかけて照葉樹の極相林になるとのこと。私達は長い歴史時間のなかでのほんの一時期にかかわっていると感じます。自然回復に関わるようになって、歴史観を持つことが大切だと思うようになりました。

豊かな樹林地に見える赤塚公園ですが、しつたり坂を登るそこは道路。森は意外に狭い幅です。



午後はお弁当を食べて、4時まで意見交換を行いました。それぞれが赤塚公園の自然に愛着を持ち、いろいろなことを感じていることがわかり、有意義な時間を持ちました。

<ニリンソウの会>

ニリンソウを守るためのきめ細かな調査や管理の話などが披露されました。アズマネザサはよくないと思って数年間切り続けたが、ニリンソウの病害にはもしかしてササを残しておいたほうがよかったかも・・・という話もありました。いたばし水と緑の会の自然管理とは考え方が違いますが、20年間の継続活動は大変立派なこととつくづく思いました。

<三園小学校>

赤塚城址に近い三園小学校の子供たちには、バッタ広場で楽しんでほしいと思っていましたが、相楽校長先生が参加され、学校とのお付き合いができてうれしいことです。三園小学校にはカエルがいっぱいくるピオトープがあり、また竹林もあります。子供たちに竹を使った工作をさせたいというお話もありました。そのときはまかせて、と言いたいですね。

<東京都公園協会>

公園管理はすべて行政がやるのではなく、利用形態に合わせて場所によっては地域のみなさんと協力して管理するという考えにかわってきています。それは「予算がないから」といった経済上の理由よりも、調査をしながらきめ細かな管理をするのは行政よりボランティア団体の方が適しているので、協力体制が必要だと考えられています。

バッタ広場について

草地はレジャー用として草刈をしているが、バッタ広場は草地の一形態として認めた。当初、遷移が進んで樹林地なることについて合意ができていなかった。今後は管理方針を明確にしていく必要があると思う。

公園協会では、草地から樹林地へ遷移していく過程は興味深いことであり、そのような場所が公園の中にあってもよいと考えている。しかし、現状の管理方針ではバッタ広場は草地とされているので、このまま樹林地になるのは草地から逸脱する。草地から遷移する区域として位置付けしてもらうよう都に申し入れることも考えてよい、とのことでした。

意見はいろいろ出ました。

- 自然は自然のためだけでなく、自然の中で遊ぶ子供たちの場所としても必要だ。
- 楽しみにしていた街路樹のイチョウも黄色くなるまでにぱっさり強剪定されてがっかりした。緑が少なくなっているまちなかで、黄葉が終わってから剪定してもらえたら。
- 以前は犬を散歩させる人と子供たちが一緒に公園を利用していたが、最近子供たちは犬の散歩の時間を避けて遊びにきているようだ。犬の糞が多い。
- 品川の小学校の教師をしているが、水辺もないし、土の地面もない。子供たちが土や緑と親しむことなく大人になってしまう。
- バッタ広場は小さいけれど、子供の頃遊んだ草原の風景だ。手を入れないことにより、カマキリだけでも4種類もいる自然が復活することがわかってすごくうれしい。バッタたちと遊んだ

子供は、親になっても自然を排除しない。こんな場所を子供たちに残したい。

- 都会で自然を感じるところは公園しかない。残された樹林地を広げるとともに、草原や雑木林、極相林、田んぼなどといったさまざまなタイプの植生が地域に残っていることが大切だ。

自然についての考え方の違いはあっても、団体同士仲良くやっていきたい、という釣巻さんのあいさつで意見交換会は終わりました。同感です。今後ともよろしく（カラーコピーの資料と懇親会のビールの財源は「小さな支援」によりいただいた補助金です。ありがとうございました）

（この催しは4年間続いた赤塚公園自然発見ウォークに変わって実施しました）

バッタ広場は悩んでいます

9月17日、バッタ広場のこれからについてお願いに行きました（会から鈴木会長、瀬田、坂本、対応してくださったのは赤塚公園管理所遠藤所長、東京都公園協会管理第1課深水係長、遠藤さん）。バッタ広場は、平成11年4月に柵を作ってから、手を加えずに2年半がたちましたが、今年夏から樹木の生長が目立つようになりました。ここは管理上草地として位置づけられています。原則は、「草を刈らない草原としては認めるが樹木はだめ」なのです。

「人の手が入らないと何がおこるか」という実験ははじまったばかり。ボランティアが何をどう調べればよいのか試行錯誤のなかで、島井先生の助言のもとで始めた植生調査はまだ3年目で、今年から定点調査をやろうと決めただけです。早くしないとどんどん変化する。でも3月に樹木を切ってしまうと、この調査も中途半端になってしまう（せめて5年位記録をとりたい）。

深水係長さんも意見交換会の中でおっしゃっていましたが、公園でも、草地から樹林地へ遷移する場所があってもよい、と思います。こんな環境があれば子供達が身近に自然の移り変わりを学習することもできます。身近な自然は公園の中にしかないのですから。

「遷移する草地」をもう少し見届けてから「草地」にしたい、いやいや「両方あったらもっとうい。夢は夢として、変化する公園についての要望も検討したいと思います（坂本 郁子）

たのしかった「秋の虫とり」 ビーバースカウトの声から

今日は10月27日 日曜日 いい天気。ぼくはボーイスカウト板橋5団、ビーバー隊に入っているビーバースカウト。小学1年生。

今日のビーバーの活動は「秋の虫とり」だ。昨日は寒くて雨が降っていたので、今日は虫捕りができるかどうかすこし心配だった。でも朝起きたらすっかり晴れていてお母さんも「大丈夫ね。」と言っていた。よかったよ。ぼくは虫が大好きで、よく草についているてんとう虫や石の下にいるダンゴ虫をさがして遊ぶんだよ。

虫はおもしろいし不思議なこともある。でもぼくの家はマンションの5階なので虫は飼えないし、お母さんは虫が嫌い。

10時にスカウトハウスに集まって赤塚公園までハイキングをしていった。一番前は隊長で、一列に並んで、車が来て危ないときは「ぬりかべー！」って言って急いで道の端や壁にくっつくゲームをしながら行った。

隊長が今日は虫博士が来てくれると言っていたのでどんな人かなと思って少し緊張した。

池のところから坂を登って広い場所に着いた。向こうのほうに草がいっぱい生えているところがあって、隊長からここはわざと草刈りをしないでおいてあるところだと説明してくれた。だから虫がいっぱいいるから楽しいよと話してくれた。名前は「バッタ広場」だって。ぼくはワクワクしてきた。

ビニール袋にたくさん虫をとってくるゲームをした。始めのうちは見つけるのがむずかしかったけれど、よく草のところを見るとカマキリがいた。

長い足がこわい感じだったけど、大きいみどり色のカマキリをソーッと指でうしろからつかまえることができた。足をバタバタしてぼくの手ひっかりそうになったので、急いでビニール袋に入れた。ビニール袋の底でガサガサして上に上がってきそうになったので、上のところをギュッとにぎっていた。

みんなでとった虫を昆虫博士に見てもらった。昆虫博士がぼくのカマキリをつまんで、「これはメスだね。すこし太っているでしょう。どうしてかな?・・・」と、聞いた。ぼくはわからなかった。「卵をおなかにもっているんだ。もう少ししたら卵を草の茎に産むんだ。はじめはフワフワしてるけど、だんだん固まってきてかたくなるんだね。来年の春になったら小さな小さなカマキリの赤ちゃんがいっぱいでてくるんだよ。」と教えてくれた。みんなが「すごーい」と言ったので、ぼくはうれしくなった。家に持って帰りたいけれど、がまんして一番後で放した。昆虫博士は大きくてメガネをかけた人だった。

くっつき虫(イノコヅチ、チカラシバの種)を長い靴下にくっつけるゲームもして、またみんな歩いてハウスに帰った。今日は楽しかった。

バッタ広場にまた行きたいです。

以上ビバースカウトのそれぞれの感想をまとめてみました。

ボーイスカウト板橋第5団ビバー隊は10月27日にバッタ広場で活動させていただきました。ほとんどの子供たちは虫が大好きで、この日の活動を楽しみにしておりました。今回、いたばし水と緑の会 会員 釣巻 岳人氏に昆虫博士に変身して虫、草などのご指導をお願いいたしましたところ、快く引き受けてくださいました。おかげ様で子供たちはいきいきとして虫取りやゲームを楽しむことができました。ありがとうございました。

比較的、自然が残っていると言われる板橋区ですが、子供たちが思いっきり自然に触れて遊べるスペースはごくわずかに限られています。そのような中、いたばし水と緑の会のご尽力で、人間が手を加えない自然のままの小さなスペース「バッタ広場」が設けられ、3年近くも人しれず、管理、維持されてきたことは、都市部にありがちな管理されすぎた自然に対するささやかな抵抗にも思えて（これは私の独断と偏見によるものですが、）反目しておもしろく、また身近な自然を学び、身近な自然と遊ぶ上で大きな意義があると思われます。

バッタ広場がこのままの状態でのどのように変化してゆくのか、見守る一区民の楽しみを奪うことのないように、関係諸機関の皆様をお願いするしだいです。

いたばし水と緑の会の活躍に期待しております。

（ボーイスカウト板橋第5団　ビーバー隊隊長　村上　はる）

6日、城址へ久しぶりに寄りました。仕事帰りの午後4時。

夏場は犬のお散歩、夕涼みの人たちで賑やかだったのがうそー！のような静けさ。

またまた独り占め状態です。

バッタ広場のエノキ、ずいぶん背丈がのびましたねえ。

イネ科の草さん達、ちからしばやかぜくささんかな。

私の腰ぐらまで伸びて、ちょっとした草ジャングルですよ。

子供達の足跡かな、けもの道みたいに跡がついててね　あっちこっちにね。

思わず歩いちゃいましたよ。

羽を閉じたキチョウ、おなかの大きなかまきりママ、命を終えたサトキマダラヒカゲ。

そんな、自然の友たちの姿を確認しながら思いました。

ここ、いいよね、いい場所だよ。

ずっと、いい場所として存在して欲しいよね、って。

自然の仲間と友達になれる、そんな場所としていつまでも。

今の人間には自然の仲間と友達になれる資格あるのかな・・・。

なんちゃってね。

* * * * * 不破 佐和子（区の花にりんそうを保存する会）

〒175-0083 板橋区徳丸 4-13-30

e-mail bubuncho@sepia.ocn.ne.jp

* * * * *

赤塚の森だより

やぶみょうがの青い実

さるとりいばらの赤い実

いぬしょうまの白い穂

うばゆりの緑の実

きちじょうそうの赤紫の花

まっかなからすうりに、黄色いゆりのき

紫色のと리카ぶと・・・。

遠くの山に負けないくらいたくさん秋のプレゼント

あなたのおうちのすぐそばにあるよ

徳丸が原公園に大きなオタマジャクシがうじゃうじゃ

池の中はゴミもなく、水を補給しなくても底まで透き通った水をたたえています。ところが、そのよく見える底に、たくさんのうごめく生き物が。ウシガエルのオタマジャクシ。どうしたことか・・・

チカラシバの紫色の穂はそれはそれはきれいでしたよ。

東京の名湧水

植生調査の報告（写真あり）

池の管理について

活動のお知らせ

運営委員会は毎月第1金曜日です。興味のある方はぜひご参加ください。

- 12月運営委員会 日時：12月6日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター
1月運営委員会 日時：1月10日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター
会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく
日時：1月15日(金)17:30~ 場所：エコポリスセンター
活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)

毎月第4土曜日が定例の活動日です。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に自然観察とゴミ拾い、その後必要な修理等の管理を行います。観察会は原則として雨天も実施します。

観察会とバッタ広場植生調査

前回のバッタ広場の植生調査は、南北を結ぶライン上の植生調査をしました。もう一地点(やり残しの定点)の調査をします。

日時：11月23日(土)10:00~12:00 場所：美術館前

環境保全課の講座 「トンボ池をつくったら何が起こったか」

日時：11月17日(日)10:00~12:00 集合：板橋美術館前

講師：いたばし水と緑の会の釣巻さん

環境保全課の講座 「水辺の生態系」

日時：12月2日(月)18:30~20:30 場所：産文ホール

講師：桜美林大学名誉教授 三島 次郎

環境保全課で実施している自然回復ボランティア活動講座の一部です。会としては必修講座?

申込：環境保全課 3579-2598

赤塚トンボ池のあり方を考える

トンボ池ができて3年半、池の維持管理のほとんどがいたばし水と緑の会にかかっています。管理の主体を明確にしたいという話が出てきており、どうするか話し合います。

日時：12月6日(金)19:00~20:00

場所：エコポリスセンター3階

水路の落ち葉掃除と落ち葉の下の生物調査(雨天は延期)

落葉がどっと落ちて水路が埋まってしまうと、流れが止まるので、水路の上流と下流(溜め池側)の落ち葉を取り除く作業をします。水路下流は高低差がないのをどうするかも課題です。

日時：12月15日(日)10:00~12:00 集合場所：赤塚トンボ池

雨天の場合は12月21日(土)10:00~12:00

持ち物：長靴、ゴム手袋、タオル(都合で日曜日にします。すみません)

2002年9月15日

みずみどり第33号

連絡先：森（5998 1149）